

咲きそこね、そして散りそびれ

登場人物

- 戸野倉 明美……………二十歳の頃から五十年近く、全国を旅公演する歌姫
にしおね
西尾根 神楽……………短大生、颯太の幼馴染、夢を応援するドリカメのメンバー
ときわ つねきち
常盤 常吉……………田舎のおじさん、夢を応援するドリカメのメンバー
やまおか そうた
山岡 颯太……………無職、神楽の幼馴染、夢を応援するドリカメのメンバー
にしかわ かえで
西川 楓……………明美のマネージャー
きふね うきぞう
木船 宇木三……………作曲家
ほんま しょうじ
本間 祥子……………謎の明美ファン
よしおか たつひこ
吉岡 竜彦……………明美の弟
とのくら かずひこ
戸野倉 和彦……………明美の夫で元マネージャー
若い頃の明美

舞台下手の客席寄りに立つ神楽、照明に浮かぶ。

神楽

それはずくと昔、歴史の教科書なんかには絶対出てこない、全国的には全く無名のあるお殿様が作った小さなお城がこの街のシンボル。まあお城と言っても、今はその石垣だけが残っていて、小高い丘の上から街を見下ろしている。そんな平和な田舎町の、これまた名もない短大に通いながら、あの夏、私は翌年に控えた卒業と、その後の進路について頭を悩ませていた。

舞台中央の客席寄りに立ちスマホで電話している颯太がスポットに浮かぶ。ワイシャツにスニーカー姿で、締めているネクタイは長さが上下逆になっている。

颯太

はい、はい、預かり証ですよ、用意しました。ポケットに入れてます。

神楽

それは幼馴染の颯太郎だった。私は早朝からのバイトの帰りで疲れていたし、いつもなら、アホでチャラ男のこんな奴当然無視だけど、見たこともないネクタイ姿や、妙に気取って電話している声に、私は嫌な予感がして思わず足を止めてしまった。

舞台前面が明るくなる。

颯太 はい、はい、了解です。あの、(辺りを見回しながら)これも撮ってるんですよね？カメラどこですか？あくいえ、ただ、俺の顔は映らない様にして欲しいかなって。何とかこう、角度的に工夫して貰って…。

神楽 (独白) 何やってんの？

颯太 ああ、じゃあ最終的に顔は編集処理で、モザイクとかで。だったら問題ないです、了解。

電話を切り、ポケットに戻す颯太。上手奥より常盤吉信が登場し颯太に歩み寄る。

常盤 あの、銀行の？

颯太 はい、北都銀行の田中です。

神楽 田中？

颯太 常盤さんですよ？

常盤 はい、

颯太 持ってきて頂けました？

常盤 ええ。

常盤がポケットから封筒を取り出し、颯太に渡す。

颯太 (受け取り) ありがとうございます。あの、キャッシュカードだけじゃなくて、暗証番号の方も？

神楽 (独白・衝撃) 颯太郎あんた、

常盤 はい、電話で仰られた通り、(その)中にキャッシュカードと一緒に、メモを。

颯太 そうですか。(胸のポケットから)じゃあこれ、預かり証になります。

常盤 あ、はい。(受け取る)

神楽 (独白・こみ上げる怒り) 何やってんのよ。

颯太 セキュリティーを強化した新しいカードは至急再発行して、明日にでもお持ちします。お伝えしたようにこのキャンペーンにご協力頂いたお客様の口座には、謝礼として十万円をお振り込みしますので、楽しみにお待ちください。

常盤 助かります。よろしくお願いします。

上手に退場する常盤。怒りに震える神楽。

神楽 (叫ぶ) 颯太郎、

颯太 あ、神楽、

神楽 あんた何やってんのよ。

颯太 違う、違うんだよ神楽。

神楽 何が違うのよ。

颯太 だからこれは、あくまづいな。ちよつと待って、

電話を取り出す颯太郎。

神楽 何電話なんかしてんのよ。あんたね、

颯太 だから違うんだって、(電話がつながり)あ、鈴木さんですか、申し訳ありません。こいつ俺の知り合いなんすけど、(笑顔で神楽の肩に手を回す)

神楽 (手を払い)ちよつと何すんのよ。

颯太 偶然通りかかったみたいで、変なやり取りが入っちゃいましたよね。やつぱり撮り直しですか？

神楽 何？

颯太 あゝそうですか。はい、はい、分かりました。じゃあ次のシーンは、駅前のATMですね。はい？十五分以内ですか？ええ、行けます。はい、はい、了解です。

神楽 何やってんのよ？

颯太 (笑顔)良かった。撮り直さなくていいらしい。

神楽 えっ？

颯太 今撮影してたんだよ。

神楽 撮影？

颯太 ユーチューブの動画。お前急に入ってくるから、焦ったあ。

神楽 どういう事？

颯太 だから全部フェイクなんだよ、フェイク。

神楽 フェイクって、

颯太 ユーチューバーの人に頼まれたんだよ。特殊詐欺の実態って、ドキュメンタリー風の映像作ってネットに上げるからって。

神楽 …じゃあ、今撮ってたの？動画、

颯太 そう。

神楽 カメラは？

颯太 どっかその辺り。ちゃんと隠し撮りしないと、それらしい画面にならないだろ。

神楽 …。

颯太 分かってくれた？だからこれは、神楽が心配してるようなオレオレ詐欺とかじゃないの。

神楽 でもやっぱり、詐欺みたいなもんじゃん。再生回数上げるために嘘の動画を作ってるんでしょ。視聴者を騙してんじゃん。

颯太 まあ、それを言ったら…。

神楽 やっぱり最低。

颯太郎 頭固いな。

神楽 当たり前でしょ。非常識よ。

颯太 これくらいネットじゃ常識だって。

神楽 颯太郎、これやめなかつたらおばさんに言うからね。

颯太 おふくろに、勘弁してよ。

神楽 だったらこんな事やめなさい。

颯太 …何なんだよ。

神楽 じゃあ、さつきのおじさんも？

颯太 仕込みだよ。

神楽 すごい自然な感じだったけど。

颯太

だよな、(嬉しそうに)俺もそれは驚いた。何か、しよぼくれた感じもそれら
しかったよな。(笑い、神楽に睨まれ、しゅんとなる)…だけどさ、

神楽

ねえ、何でこんなことやってんの？

颯太

何でって、バイトだよ。ほら、神楽もうすぐ誕生日だから。

神楽

はあ？

颯太

やっぱり俺も彼氏としてはき、プレゼントくらい買ってやりたいじゃないの、
お前に。

神楽

あんた脳みそ腐ってんじゃないの。私あんたなんかと付き合った覚えはないか
ら。

颯太

(笑顔)今はな、でもいずれそうなるって。俺のピュアな愛でお前の凍った
ハートを溶かしてみせるよ、とろり〜って。

神楽

勝手に妄想してる。こんな犯罪みたいな事してる奴と、誰が、

颯太 そんな大げさな事じゃないって。第一、誰にも迷惑かけてないだろ。

颯太が話している途中で上手から登場する常盤。 神楽だけ気づく。

神楽 颯太郎、

颯太 うん？(神楽の視線を追い)あれ？おじさん…。

常盤 あの、すみません。さっきの番号なんです。

颯太 は？

常盤 いえあの、何分、長い間使っていないキャッシュカードでして、もしかしたらお渡しした暗証番号、間違ってたんじゃないかと心配になって。

颯太 何言ってるんですか？

常盤 ですから、先ほどお渡ししたキャッシュカードの…。

颯太 ん…？ (神楽は真相に気づく)

神楽 颯太郎、あんたさつき電話で駅前のATMの話してたよね。

颯太 ああ、次に撮影するシーンの話だけど。

神楽 撮影って何撮るの？

颯太 受け子役の俺が、出し子役の人にキャッシュカードを渡すシーンを、(気づき) あっ、

神楽 馬鹿、あんた本当に詐欺の手伝いさせられてんじゃん。

颯太 そっか。

神楽 こんなバイトの話、どこで見つけたの？

颯太 ネット、

神楽 ネットって、相手は知らない奴？

颯太郎 メールのやり取りだけ、顔も見た事ない。

神楽 もうホント馬鹿。

颯太 どうしよう神楽、

常盤 あの、

神楽 颯太郎、とにかくカードお返しして。

颯太 あゝそうだな。(カードを常盤に)ごめんなさい、これ、お返しします。

常盤 返すってあの、十万円は？

颯太 それが、その…。

神楽 (間に割り込み)すみません、私、こいつの知り合いで神楽って言います。

常盤 あ、はい。

神楽 この話、嘘なんです。

常盤 嘘、

神楽 こいつも騙されて、詐欺とは知らずに使えばしりやらされてたんです。

常盤 詐欺、ですか。

神楽 はい、オレオレ詐欺、みたいな。

颯太 申し訳ないっす。

常盤 じゃあ、キャッシュカードを預けたら、セキュリティを強化しておまけに十万円を振り込んで貰えるというキャンペーンの話は…。

神楽 そんなの嘘です、全部嘘。

颯太 ごめんなさい。俺、おじさんも芝居してるって思ってたから。

常盤 芝居？

神楽 とにかく、この後こいつが駅前で犯人にキャッシュカードを渡すって段取りになつてるみたいなので、私は駅前の交番に駆け込んで、こいつと話してる犯人をおまわりさんに逮捕して貰います。

颯太 え、そうなの、俺達そんな事するの？

神楽 やるでしょ。

颯太 (庄倒され)うん、やるよ。

神楽 すぐにおまわりさん連れていくから、少しくらい遅れても話伸ばしてるのよ。

颯太 分かった。

神楽 (颯太郎の手を引っ張り)行くよ。

下手に走り出そうと、神楽と颯太。

常盤 ちょっと、待って下さい。

神楽 何ですか？

常盤 そういう事だったら、これ(封筒)持って行って下さい。

神楽 え、これキャッシュカードですよ。

常盤 はい。

神楽 でも、

常盤 犯人がこれを受け取って、ポケットや鞆にしまったタイミングで逮捕して貰った方が。

神楽 あっ、そうか。

常盤 はい、そしたら、犯人は言い訳出来ませんから。

颯太 そうだよな。逆にこれ無かったらいくらでも言い訳が出来る。

神楽　でもやつぱり、キャッシュカードを預かるのは…。

常盤　大丈夫です。それ、残高三百円とかですから。

神楽　え、

颯太　そうなんすか。

常盤　（笑顔）はい。

颯太　…はいつて。

笑い出す常盤とそれにつられて笑い出す颯太と神楽。

神楽　えっと、お名前は？

常盤　常盤です。

神楽　じゃあ常盤さん、ついでに交番まで一緒に来て貰えますか。

常盤 え、

神楽 騙されたって、警察で証言してください。

常盤 いや…それは困ります。

神楽 え、困りますって？

常盤 私、実際はまだ何の被害も受けてませんし。

神楽 でも騙されて、キャッシュカードを渡したじゃないですか。

常盤 元々三百円しか入ってない口座です。被害の被りようも無かったんです。

神楽 それは関係ないですよ。

常盤 いや…今考えたら、私、初めからこれはおかしい話だと感じてたような気がします。だから、騙されたとは言えないですよ。

颯太 え、そこ？

常盤 怪しい話だと思いつながら、だけでもし本当だったら、十万円貰えるかも知れないって、厚かましく、そう考えたんです。

颯太 普通誰だってそう考えますよ。

神楽 そうですよ、それが詐欺師の狙いで、

常盤 いや、そんな事ありません。普通こういう詐欺の被害者って、子供や孫の窮地を救おうとして騙されるんですよ。だけど私の場合は：いや、本当に自分が恥ずかしいです。金に目が眩んでホイホイと：みっともないですよ。こんな私が被害者でございますなんて、とてもとても、言えないです。

神楽 (毅然と) 常盤さん。

常盤 はい、

神楽 そうやって常盤さんが自分を責めてるって事は、もう被害者ですよ、立派な。

常盤 え？

神楽 被害って、お金だけじゃないと思います。もし、こんな事に巻き込まれてなかったら、常盤さんはそんな風に自分を責める必要無かったですよ。

常盤 …それは…。

神楽 私、この街が好きなんです。こんな小さな田舎街だけど、私の大事なふるさとです。この街で詐欺なんて、絶対に許せない。

颯太 それは、俺も同じ。

神楽 放つといったら今度は本当に騙される人が出ます。一緒に、お願いします。

颯太 行きましようよ。

神楽 常盤さん。

常盤 …はい。

三人下手に退場。曲が流れ、転換明かり。舞台中央前面に白いベンチ。上手から松葉

杖をついて明美が登場。ベンチの周りが明るくなって、街を見下ろす小高い丘の上。遠い目で街を見下ろしている明美。ベンチに腰を下ろす明美。暫くして、上手から両手に大きな荷物と背中にリュックを背負った楓が、息を切らして登場、明美を見つめる。

楓　　ふふ、やっと見つけた。姐さん、(振り向かない明美)明美姐さん、

明美　(ちらりと見て)随分遅かったのね。

楓　　はあ？何ですかそれ。こっちは知らない土地をこんな大きな荷物持って、あつち行ったりこっち行ったり、もうどんだけ苦労してあの家にたどり着いたか。

明美　　しようがないでしょ、こんな足じゃ荷物なんて持てないんだから。

楓　　そうでしょうけど、少しは私に感謝の言葉とか、

明美　　それで、お金は貰えたの？

楓　　貰えましたけど。

明美　　だったらゴチャゴチャ言っていないで、早く出して。

楓　　何なんですかもう。

楓、荷物をベンチに置き、鞆から封筒を出す。

楓　　（封筒）どうぞ。

封筒を受け取った明美、中を軽く確認し笑顔。一万円札を二枚、楓に渡す。

明美　　あんたが立て替えた電車賃。

楓　　（受け取り）あの、これ、

明美　　構わないわよ、釣りはとつといて。

楓　　じゃなくて足りないんです。分かってんでしょ。もう一枚です。

明美　　まったく、そういうとこだけはキツチリしてるんだから。

楓 まったくって言いたいののはこっちですよ。

明美 ほら、(もう一枚)…で、竜彦は、弟は元気だった？

楓 名前は聞いてませんが、お金くれたおじさんですよ？

明美 あたしの名前を出してお金をくれたんならそうよ。どうなの、元気そうだった？

楓 まあ体は健康そうでしたけど、凄く怒ってました。

明美 …そ。

楓 もう連絡してくるなって、お金は手切れ金だから、そう伝える様になって。

明美 (笑) 手切れ金。

楓 弟さんがあんなに怒ってるって、明美姐さん何やったんですか？

明美

何もしてないわよ。二十歳で家を飛び出して一度も帰ってないだけ。まあその間に弟が結婚したり、二親が亡くなったりはしたけど。

楓

ご両親のお葬式にも帰らなかったんですか？

明美

しようがないでしょ。二人とも間が悪いのよ、決まってこっちが公演で忙しい時に葬式出すんだから。

楓

：明美姐さん：ホント呆れた人ですね。

明美

何今更言ってるのよ。

楓

手紙とか連絡は？

明美

根掘り葉掘り聞くわね。やったわよ、結構マメに。

楓

本当ですか？

明美

本当よ。親が生きてた頃はね。お金が足んないって手紙書いたらすぐに送金してくれてたから。

楓　それ只の金の無心じゃないですか。

明美　（得意げ）楓ちゃん、親ってね、そういう手紙でも結構嬉しいみたいよ。あはしは親になつた事無いからそんな気持ちよく分らないけど。

楓　姐さん、普通そんな事言うの二十代までですよ。しかもそれヤンキーとか不良の台詞です。

明美　しょうがないでしょ。あたし気持ちも見えた目も若いから。

楓　ほとんど段差も無い道で躓いて、そんな姿になっちゃったくせに。

明美　何よ。

楓　いいえ。

明美　もういいわよ。そんな事より、ホテル、いいとことれた？

楓　あ、それなんですけどね…。

明美 何？またビジネスホテルとか、あたし嫌よ。

楓 じゃなくて、姐さん足が治るまでこの街に居るって言ったじゃないですか。それって多分一カ月以上でしょ。ずっとホテルに泊まったら結構な金額ですよね。

明美 (笑顔) 大丈夫よ。お金はほら、ちゃんとあるから。

楓 やっぱり。

明美 何、やっぱりって？

楓 私心配してたんです。姐さんがそうやって苦労しないで大金を手にしたら、絶対湯水の様は無駄遣いするだらなって。姐さん、先の事考えたら、節約出来るところは節約した方がいいですって。

明美 何が言いたいの？あたしに野宿でもしろっての？

楓 あ、それも有りですね。

明美 馬鹿言ってるんじゃないわよ。

楓 明美姐さん、実はですね、私ダメもとで不動産屋に飛び込んで聞いてみたんですよ。一カ月とかそういう短い期間だけ、格安で借りられる賃貸はないかって。

明美 賃貸？

楓 ええ。そしたら「ありますよ」って。それがなんと、家賃三万、敷金礼金一切なし。凄くないですか？

明美 何よそれ、

楓 都会じゃ考えられませんよね。地方価格ばんざうい。

明美 ダメよ、賃貸なんてお断り。

楓 どうしてですか？

明美

どうしてもこうしても無いわよ。何十年も働きづめに働いたあたしが、初めてとる長いお休みなのよ。優雅に過ごして身も心もリフレッシュしたいからに決まってるでしょ。何でそんな貧乏ったらしい話もってくんよ。

楓

貧乏ったらしいんじゃないかって、お金は賢く使いましょって話です。その
どこが、

明美

三万円のボロアパートなんて冗談じゃない。

楓

アパートなんて言っていないじゃないですか。

明美

言わなくても分かるわよ。家賃三万って聞いただけで絵が浮かぶわ。裸電球、シミだらけの天井。薄暗い廊下の奥に共同便所と流しがあって、閉まりの悪い蛇口からポチャッ、ポチャッって水漏れの音。あくもう想像するだけで気持ちが悪えるわ。

楓

ところがですね、豪邸なんです、この物件。

明美

？（楓を凝視）豪邸？

楓 はい、おしゃれな洋館です。8LDKの一軒家。

明美 …そんな馬鹿な話が…。

楓 本当です。しかも、しかもですよ。広い敷地を高い塀で囲んでるから、ホテルだったら絶対出来ない発声練習もやり放題。姐さんがどんなに大声で歌っても、誰からも文句は言われません。どうです？

明美 …いくらこの街が田舎って言っても、その話おかしいわよ。何か裏があるに決まってるわ。

楓 そうじゃないんです。予定があつて長い期間は貸せないけど、遊ばせとくのは勿体ない、一月二月ならそれでいいよって、そういう話なんです。

明美 …でも、やっぱり何か怪しいわ。

楓 そうですか。電化製品高級家具、全部揃つてて、ある物は好きに使つていいよくなつて、いい話ですけどねえ。やっぱりホテルにします？

明美 …。

楓 どちらでもいいんですよ。でも明美姐さんほら、毎日声は出したいって言うてたから。

明美 …。

楓 分かりました。やっぱりホテルがいいですね。

明美 …それで、いつから入れるの？

楓 ホテルですか？ホテルだったらいつだって、

明美 賃貸の方よ。

楓 (勝ち誇り)ですよね。実はもう契約済ませてます。ほら(ポケットから)鍵も
ありますよ。

明美 まったく、人をからかってんじゃないわよ。

楓 少し位遊ばせて下さいよ。じやなきや明美姐さんのマナージャーなんて、メ

ンタル持たないです。

明美 (立ち上がり) 話決まったんだから、さっさと行くわよ。

楓 えっ、ちょ、ちよつと待ってくださいよ。

楓が慌てて荷物をまとめリュックを背負う間に、明美は、二、三歩歩いて立ち止まり、再び遠い目で見下ろす。明美の様子に気づき顔を覗き込む楓。

楓 …それにしても姐さんその足で、何で待ち合わせこんな所にしたんですか？
下のバス停からの坂道、私もう死ぬかと思いましたよ。

明美 あたしは駅からタクシーだから。

楓 でしょうね。

明美 …ここね、昔、お城があった所なの。

楓 ああそれで。バス停の名前、城址公園下ってなっていました。

明美 ほら、ここからの眺め、なかなかでしょ？

楓 はい、街が一望出来て、いい眺めですね。

明美 もう四十四、五年になるわね…ここから始まったの、私とあの人の旅は。

楓 え、

明美 親に黙ってこの街を出た時、私達、この公園で待ち合わせたのよ。

楓 え、戸野倉さんと明美姐さん、駆け落ちだったんですか。

明美 そんなじゃないわよ。私達その時はまだ付き合ってもいなかったし。

楓 でも、二人で一緒に街を出たんですよね？

明美 そうよ。

楓 え、どうして…？

明美

：あたしね、子供の頃から夢は歌手になる事だったの。だけど、親に反対されて、しよすがなくこの街の短大に通ってた時に、高校の同級生だった男の子が手伝うって言うてくれたの。

楓

手伝うって、何を？

明美

だから、親の反対で夢を捨てそうになってたあたしに、諦めるなって言うてくれて、どうやったら歌手になれるか一緒に調べてみよって。それからポイストレーニングの先生を探してくれたり、そのレッスン料もバイトしてカシパしてくれたり。

楓

へ〜随分面倒見のいい子ですね。

明美

そうなのよ。

楓

でも、それが戸野倉さんだった訳ですね。

明美

じゃないのよ。

楓

え？

明美 暫くしてその子が、頼りになる先輩だからって連れて来て、一緒にやる事になったのがうちの人の。

楓 そうなんですか。

明美 だからウチの人は、最初はあたしっていうより後輩を助けるつもりで手伝い始めたのよ。

楓 へ〜面白い話ですね。それが縁で、戸野倉さんはそれからの人生を明美姐さんに捧げる事になっちゃった訳ですね。

明美 まあ、結果的にはそういう事よね。

楓 やっぱり明美姐さんって、他人を巻き込む星の下に生まれてるんですよ。

明美 どんな星よ。

楓 それに引き換え戸野倉さんは、昔から面倒見の良い人だったんですね。

明美　そこは最後まで変わらなかったわね。

楓　明美姐さん、ここからの眺め、やっぱり戸野倉さんにも見せましようよ。

明美　…そうね、そうしようか。

楓、リュックをベンチに下ろし、中から白い遺骨の包みを取り出す。遺骨を手に、明美の傍らに立つ楓。

曲が流れ、照明変わる。

明美　貴方、見える？街の真ん中を東西に走る中川、北に望む天狗岳の尾根、あの頃と、何一つ変わってないわよ。

— 暗転 —

明るくなり、舞台下手に立つ神楽と颯太、手に表彰状と表彰状を入れる筒を持っている。上手のベンチに腰を下ろしている常盤も手にした表彰状を開いて見ている。

颯太　はい、はい、はい、この真ん中、真つすぐの線が中川。そしてこのジグザグ

がく天狗岳、ピンポンピンポンポーン。やっぱりここからの景色を透か
しにしたんだよ、これ、俺の言った通りだよな、神楽。

神楽 はいはい、もう気が済んだ。

颯太 俺が感謝状に透かしが入ってるって言った時、お前言ったよな。『馬鹿じ
やないの、これは透かしなんかじゃやないわよ。製造過程でたまたま紙の厚さ
が均一じゃなくなってる』とか何とか。はあ？

神楽 だって透かしに見えなかったんだもん。こんな中途半端な仕事して、警察も
やる事甘いわ。

颯太 ちゃんと負けを認めろよ。

神楽 常盤さん、下らない事に付き合わせちゃって、すみませんね。

常盤 (感激して) ありがとうございます。私、本当に嬉しいです。

神楽 え？

常盤

(感謝状に目を落とし感極まり)私が、こんなものを貰うなんて…なんだか今、しみじみこみ上げて来て、感動しています。生きてたら、こんな事もあるんだなあつて。これもみんなお二人のおかげです。ありがとうございます。

颯太

え、どうしたんですか？

神楽

常盤さん？

常盤

私の人生、今まで何にも無かったんですよ。びっくりする位、何にも無かったです。

颯太

何も無かったって…？

常盤

どういうんですかね、私、昔から本当に存在感の薄い人間なんですよ。

顔を見合わず神楽と颯太。

神楽

…そんな事は、無いと思いますけど。

常盤

いや、そうなんです。長い間同じ職場で働いた同僚や、学生時代親友みたい

に思ってた友達と、久しぶりにばったり会って挨拶したら、怪訝そうな顔して逃げられた、そんな経験が何度もあります。中学高校の同窓会に参加しても、誰も私の事なんて覚えていません。アルバムの写真を指差したら「ああ確かに居たんですね」って言われます。そんな経験、お二人には無いでしょう？

颯太 (笑) さすがに無いね。(神楽に睨まれ、おっと)

常盤 この街で生まれ、この街の学校に通い、この街で働いて、ひたすら地味く生きて来ました。お二人の何倍も長く生きて来た筈の私の人生ですが、振り返っても、何にも無いんです、人生のイベントみたいなものが。

颯太 あの、常盤さんつてもしかして、結婚も？

常盤 はい、まだ独身です。

颯太 (苦笑) いや、まだって、

神楽 颯太郎、

常盤 でも、でもですよ、何にも無かった私の人生ですが、今回、警察の方にご苦

労様なんて言われて、こんな感謝状まで頂いて、新聞に名前も載るんですよ。

神楽
と言っても、ほぼこの街限定の地方新聞だし、多分、（指で）これ位の小さい記事が載るだけですよ。

常盤
それで充分です。私にとっては凄い事です。何だか、この街の歴史に爪痕を残せた、そんな気持ちです。

神楽
：そう、ですか。

颯太
まあ、俺も常盤さんの気持ちは分かるよ。

常盤
分かって頂けますか。

颯太
うん。先週警察からの電話で、俺に感謝状が出るって聞いた時のおふくろの喜び方は凄かったよ。今日だって、俺が帰ったらパーティーやるって、家族も親戚もみんな集まってるし。

神楽
おばさん、

颯太 おふくろがさ、俺の手を取って言ったんだよ「あんたはいつかこういう事を成し遂げる子だと、母さん信じてたから」って。

神楽 いや、詐欺のパシリやってただけだから。

颯太 そうだ、俺今ちよつといい事思いついちゃったんだけど。

神楽 どうせつまんない事でしょ。

常盤 何ですか？

颯太 神楽、そして常盤さん、俺達これから、世の中の為になる事やっちゃいません？

神楽 はあ？

常盤 世の中の為になる事？例えばどんな？

颯太 まあやる事は何でもいいんですけど、三人で出来る事適当に見繕って、それ

っぽい名前のボランティア団体とか作って軽く人助け。正義の味方くみた
いな、ぶちかましません。

神楽
お願いだからそんなノリで人助けとか口にするのやめて。何かもうおぞまし
い、絶対反対。

颯太
何でだよ。

神楽
颯太郎が人助けなんて、本気で思ってる訳がない。

颯太
神楽、お前何でもっと純粹な心で俺をちゃんと見てくれないの？俺の本質を。

神楽
あんたの本質はこれ以上見たくないってくらい見てきたの。だから絶対反対。

颯太
あんな神楽、あの日この三人があそこに居合わせたのは運命だったんだよ。

神楽
はあ？

常盤
運命ですか？

颯太　　そうです。常盤さんもそう感じませんか？

常盤　　そうなんでしょうか…？

颯太　　確かに始まりは変な電話やネットの書き込みだった。でも、騙されて呼び出されたのが何で俺や常盤さんだったんですか？他の誰かだった可能性だけである訳でしょ。ましてや、関係ない神楽がバイト帰りにあのタイムミングで登場した、これって偶然だと思えます？きつと全ては必然だったんですよ。

常盤　　なるほど。（次第に颯太に説得されていく）

神楽　　常盤さん、こいつ適当な事言ってるだけですから。

常盤　　でも、何だか私もそんな気がして来ました。

颯太　　でしょ。だからこそ、俺はあの日生まれたこの三人の絆を大事にしたいんです。三人で何かやりたいんです、誰かの役に立つことを。

常盤　　三人で、誰かの役に立つことを…。

颯太
そうです。

神楽
颯太郎、ニートのあんたに今必要なのは就職。いつまでも親のすねかじってんじゃないわよ。私だって来年は卒業だし、そんな暇ないの。

颯太
もしずっとやり続けられないなら、せめてあと一回でもいい、この三人で何かやろうよ。

神楽
もう目的が思い出作りになってるし。

颯太
思い出作り結構。常盤さん、常盤さんは自分は存在感が薄いつて言ってますよ。みんな常盤さんの事を忘れるつて、俺は絶対に常盤さんの事忘れませんよ。だって一緒に頑張つて、この感謝状を勝ち取ったんですから。

常盤
ありがとうございます。颯太郎さん、私感激です。

神楽
いや常盤さん、乗せられちゃだめだから。

颯太
だけど俺は、俺だけじゃなく神楽にも常盤さんの事を忘れて欲しくないんだよ。

神楽 何勝手に私が忘れるって決めつけてんのよ。

颯太

常盤さん、それは神楽が悪いって事じゃない。ただ、若い女の子のキャラチヤラした日常には、刺激的な事も多い。だから忘れるんですよ、こいつはきつと、常盤さんの事を。

神楽

ちよつと、

常盤、『そうなんですか?』という目で神楽をじつと見る。

神楽

(常盤の視線を受け) いやいやいや、

颯太

そうならない為にも、もう一度一緒に何かを成し遂げて、この三人の絆を確かなものにしたじやないですか。

常盤

神楽さん、一緒にやりましょう、誰かの役に立つ何かを。

神楽

完全に乗せられちゃいましたね。

颯太 よし、やろう神楽。

神楽 お断り。絶対にやらない。

颯太 頼むよ神楽、一生のお願い。

常盤 神楽さん、お願いします。一緒にやりましょう。(哀願する目で神楽を見る)

神楽 …何なのよもう。

颯太 よし決まった。

常盤 じゃあ颯太郎さん、具体的には何を？

颯太 うん、具体的には、ですね…それはまあ…色々あるんすけどね…。

神楽 やっぱ何も考えてないじゃん。

颯太 いや、そうじゃなくて、

常盤　じゃあ、子供食堂を手伝うとか、どうでしょう。

神楽　子供食堂？

颯太　て、何すかそれ？

常盤　つまり、経済的な理由で、満足に食べられない子供たちの為に、食事を無料、あるいは、格安で提供するボランティアです。

颯太　ああ、それでもいいか。相手が子供なら、神楽の下手な料理でもごまかせるだろうし。

神楽　はあ？

颯太　ただ、俺的には、ガキの相手はあんま得意じゃないですけど。

常盤　でしたら、海外の難民を支援する為に、毎月決まった金額をNPOに寄付するというのが良いかと思えます。

颯太　寄付って、コスパ悪くないですか。

常盤
コスパ？

颯太
コストパフォーマンスですよ。金は払うのに、やることが目立たないって感じ。

常盤
いや、それは…。

神楽
常盤さん、もしかして、そういうのやってるんですか？

常盤
え、

神楽
何だか詳しいし、子供食堂とか、難民支援とかって…。

常盤
：毎月、本当に少ない額ですが、出来る範囲でやっています。

神楽
やっぱり。

颯太
へーそうなんだ。まあ、だったらやり方も分かっているって事か。じゃあ、

神楽 常盤さん、やっぱりそういうの、この三人でやるのは無理だと思います。

颯太 何でだよ。

神楽 颯太郎、常盤さんはもう一人でやってるし、私は、やるならちゃんとやりた

いけどその決心がつかない。あんたに至っては問題外。多分三人の意識が違い過ぎる。

颯太 それどういう意味だよ。

神楽 常盤さん、この三人でやるんだったら、もう少し、ハードルの低い事ないで

すか？

常盤 ハードルの低い事？

神楽 もう少し、気軽に始められるっていうか、初心者向きの…。

常盤 …あの…初心者向きかどうか、分かりませんが…。

颯太 なんかないんすね？

常盤

：ウチの近所に豪邸がありまして、そこに先日、私と同一年位の、年配の女性
性が越して来たんですよ。何でも若い時から日本中を旅しながら歌謡ショー
をやってる歌い手さんで、三十年位前に一度、有線放送で、少し話題になっ
た歌もあるそうです。

颯太

そのおばちゃんが、どうしたんすか？

常盤

その方、この街の出身で、今回ちよつと足を怪我されて、何十年ぶりかで故
郷に帰って来られたみたいなんですけど、怪我が治ったらまた旅巡業に出ら
れるそうなんです…。

颯太

それで？

照明が変わり舞台転換中に三人の声が聞こえてくる。

常盤

(声)マナージャーさんって仰る女性の話では、もうお歳もお歳だから引退を
勧めてるけど、本人はヒット曲を世に出すまでは、絶対に引退はしないって
言ってる、前のマナージャーだった、亡くなったご主人との約束だからって。

颯太 (声) ふくん、なるほどね。

神楽 (声) …ちよつと切ないけど…ちよつと素敵な話ですね。

颯太 (声) おばちゃん歌手、名前は何て言うんですか？

常盤 (声) 芸名は、苗字が無くて明美さんですね。

神楽 (声) 明美さんか…芸名にしては意外と普通ね。

明美の持ち歌のイントロが流れ次第に舞台奥が明るくなる。正面の階段の上に登場し、歌い始める明美。明美の名前が入った団扇を持って、舞台客席寄りの上手に常盤と颯、下手に颯太と神楽、曲に合わせて団扇を振り応援している。